

津波対策ソフト重視

琉球大の 仲座栄三教授 日ごろの備え強調



仲座栄三教授



東日本大震災を受け、琉球大の仲座栄三教授(同大島嶼防災研究センター併任教員)が27日、那覇市内のホテルで講演し、東北を襲ったような大津波から地域を守るハード整備には「無理がある」とした上で、「日

る第1回県消防広域化推進協議会を前に行われた。仲座教授は今回の震災で、甚大な津波被害を受けた岩手県釜石市内の児童・生徒のほぼ全員が無事に逃げ延びた「釜石の奇跡」を紹介。①想定を信じない②最善を

噴火などの災害が交互に起こっている」と指摘。沖繩は明和の大津波で世界最大の40級級の被害を経験したにもかかわらず、200年たつて記憶が薄れてしまった」と、防災意識の欠如に危機感を示した。さらにプレート

ごろから、私たち自身が海抜何メートルの所に住んでいるのかを知り、避難場所を決め、逃げるといふソフト面の対策が非常に重要だ」と訴えた。

また、500年前にさかのぼった記録に照らすと、東北と九州では地震や火山

一方、同協議会では県内消防の広域化を目指した事業スケジュール案を承認。協議会に不参加の3市について、下部組織にあたる専門部会へのオブザーバー参加を促し、情報を提供する

講演は38市町村が参加す

東北と九州では地震や火山

ことなどを確認した。